

## 要請書

# 再稼働に同意しないでください

原発で事故を起こせば、福岡県民の命と暮らし、自然が破壊されます

2017年4月7日

佐賀県知事 山口祥義様

今を生きる会

共同世話人 左近明子 大津 啓 吉良文江  
大澤ますみ 小林榮子

福岡は一年のうちで三分の一は偏西風が吹いています。

玄海原発で万が一の事故が起きたら、偏西風に乗って放射能の被害は台風の進路のように全国を駆け巡ります。

福岡県民 510 万人、福岡市民 156 万人に対して、説明会は糸島市で 1 回開催されただけです。福岡市民には一度も開催されていません。何の説明もないまま、そして何の発言権も無いまま、一方的に被害だけを受けるなんて私たちは納得できません。

しかし私たちの命の危険性は岸本英雄玄海町長と山口祥義佐賀県知事のたった二人の手の中に委ねられています。今日はこの理不尽さに納得できず、直接訴えに来ました。

東京電力福島第一原発事故はまだ原因究明はおろか、溶け落ちたデブリの状態も分からない、まさに人類が誰も経験したことの無い未曾有の原発事故の真っ最中です。

福島第一原発事故の原因究明や収束の見込みがないなか、いかなる理由があろうとも、再稼働など断じて許すことはできません。福島の取り返しのつかない甚大な犠牲を無駄にするのでしょうか。

こうしたなか、福島原発事故の復興の最高責任者であるはずの今村雅弘復興相(佐賀県出身の衆議院議員)は、4月4日の記者会見で「自主避難者帰還は本人の責任、判断だ」と述べ、記者の質問に激昂して記者会見場から一方的に席を立ちました。各地に自主避難した人たちから「はらわたが煮えくりかえる気持ちだ」との怒りと抗議の声が寄せられています。

自主避難者をめぐって3月には前橋地裁で、国と東京電力の賠償責任を認める判決が出たばかりです。今村発言は、まさにこれが国の姿勢を象徴しているのではないのでしょうか。国は、2011年3月から苦しんで泣いている人々をどこまで侮辱するのですか。

福島からの避難移住の友人が“ふるさと”の歌が歌えない。

“水は清きふるさと…”余りに哀しすぎて歌えないと泣いています。本当にどれだけの人が涙を堪えて苦しん

でいるのか、子どもたちの希望も将来の夢も壊そうとしているのです。

岸本町長は早々と3月7日に同意表明、あとは山口知事の決断にかかっています。知事は「住民の理解が得られたら再稼働はやむを得ない」と発言されていますが、原発の過酷事故が起きた時の被害地元の住民は佐賀県民だけではなく、福岡県民のみならず、日本中、ひいては世界中すべての命を奪われかねません。

万が一の事故が起きた時は、山口知事は、どういった責任をとるおつもりでしょうか。知事自身をご自分の子どもや孫にどう説明されるのでしょうか。

どうぞ静かにお考えになってください。

地球上の声なき声に耳を澄ませて聴いてください。

そして、きらきら輝く子どもの眼を見て分りやすく説明してください。

それが再稼働に同意権限を持っている佐賀県知事の責務です。私たちは故郷を奪われたくありません。

地域のコミュニティも壊されたくありません。

九州の豊かな自然も第一次産業も“いのち”の源です。

住民の意見、不安にしっかりと耳を傾け、自然の声をそばだててください。

#### 【要請事項】

原発事故のリスクは消えません。事故が起きれば福岡県民 510 万人の命と暮らし、自然を破壊します。再稼働に同意しないでください。

---

連絡先:今を生きる会(小林:090-4983-7032)